
水鏡のデュエリスト

ミクシエ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

水鏡のデュエリスト

【NZコード】

N1686Z

【作者名】

ミクシH

【あらすじ】

デュエルアカデミアに入学した記憶を失った一人の少女の物語彼女はそこで何を学び、何を知るのだろう・・・
一人の少女が遊戯王GXの世界に入り込み始まるエフの物語

第1話 それは彼女の物語（前書き）

デュエルアカデミアに入学した記憶を失った一人の少女の物語彼女はそこで何を学び、何を知るのだろう・・・

一人の少女が遊戯王GXの世界に入り込み始まるIfの物語
主人公がシンクロを使うのでちょっととした枷を一つ

主人公は2つのデッキでシンクロを使用しますが二つのデッキで合わせて同名のカードなしの合計15枚のエキストラデッキしか使用しません、そのためエクシーズは今のところ使う予定はないです（敵として出すオリキヤラが使うかも）

第1話 それは彼女の物語

私がこの世界に来た時のこととはよく覚えていない
ただ周りの景色が少し大きく見え、どう見てもぶかぶかでサイズ
の合っていないどこかで見たことのある
機械が左腕に引っ掛けたくらいだろうか。

周りを見回してもどこかで見たことがありそうなしかし同時に見
たことのない街の風景、

田はまだ高く人々が田の前に道を歩く風景
そして私は田の前の光景にただただ怖くなりそのままどこかへと
走り出したことは覚えている。

どのくらい走ったのだろうか、
この小さな体でどれだけ走ったのかもさえ覚えていない。
足がもつれつまずいて倒れてしまふまで走り続けていた、
倒れた私の前には機械にセットされていたカードと
腰にぶら下げていたケースの中のカードが散らばつてあり
今いる場所がどこかの小さな公園のような場所だった。
とりあえず地面にばらまいてしまったカードを集めていた
私はふと何かを思い出したように手の中にあるカードの束と田の
前に置いた機械を交互に見つめた。

「そういえばこの機械は……」

つまづいて倒れた時に衝撃で電源が入つてのかその機械は起動し
ているようだつた

手の中にあるカードの束の中からおもむろに一枚のカードを取り

出し

その機械に近づきカードをセットすると

目の前に幻想が広がった

目の前に現れた幻想に私は次々とカードを入れ替えながら見入つていた、

中には機械が反応せずにERRORとだけ出るカードもあつたが私は気にせずに次々とカードを変えていった

そして最後の1枚をセットした時に彼らが現れた。

全員が全身黒ずくめで黒のサングラスという怪しい男たちだったために

びっくりした私は立ち上がり駆け出そうとしたが腕を掴まれ囲まれていた、

それに入り口にはすでに黒ずくめの男たちが立っていたために腕を振り払い逃げだすこともできなかつた。

その男たちに私はこれまた黒塗りの車に乗せられどこかへと連れて行かれた。

その時の私はこれからどうなるかという不安で生きた心地がしなかつたのは覚えてる

それから私を乗せた車ははどこかの建物の中に入つて行つた。

車から降ろされた私の周りを黒服の男たちが囲みその建物の一室へと連れていかれた。

大きな窓にテーブルとイスそれとベットが一つそれだけがある部

屋だつた。

持つっていた荷物はすべてとられこの部屋に一人閉じ込められた私はあまりの恐怖で泣き出してしまつた、

誰かが私を起こそうとしている、どうやら私は泣き疲れて眠つていたようだ。

眠い目をこすると眼の周りが少し痛い
私を起こしていたのは私をここに連れてきた黒服の一人と高そつな背広を着た青年がいた、

青年は黒服の男に

「磯野こいつが例の未登録のデュエルディスクでサーバーにアクセスしていたやつか？」

「はい、その上謎のカードも数枚保持しておりました為に確保し連れてまいりました」

どうやらあの青年は黒服たちの上司に当たる人物みたい

「おいおまえ、あのデュエルディスクをどこで手に入れ、なぜデュエルシステムのメインサーバーに

アクセスしようとした」

青年は強い口調で私にそう聞いてきた。

「それと海馬コーポレーションのメインサーバーのデータに存在していないカードは

どこで手に入れた、こたえる」

どうやら私が持つっていたカードと機械（この時はまだ持つっていた機械がデュエルディスクとは知らなかつた）の出所を聞き出そうとしていた。

「カードは私のです、デュエルディスクは……分かりません……

…」
その時の涙目になり上擦つた私の答えは彼らの質問の答えにはなつてはいなかつたが、

「まあいい、」このことには後からでも確認はできる。おー、おまえ
名前は何て言つんだ。

とりあえずおまえの両親に電話して迎えに来てもいいから

その問い合わせて私は

「私の名前は・・・・・・」

これが私が遊戯王の世界で私としてこれから生きていく始まり
だつた・・・・・・・・

ただ長谷部環境

長谷部環境

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1686z/>

水鏡のデュエリスト

2011年12月5日23時45分発行